

平成 26 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社 ヤ ギ  
 代表者名 代表取締役社長 八 木 秀 夫  
 (コード 7 4 6 0 東証第 2 部)  
 問合せ先 経営企画部長 三 浦 明 石  
 (TEL 0 6 - 6 2 6 6 - 7 3 3 2)

## 中期経営計画 “Value Innovation 123” 策定に関するお知らせ

当社グループは、平成 27 年 3 月期を初年度とする中期経営計画 “Value Innovation 123” (平成 27 年 3 月期～平成 29 年 3 月期) を策定いたしましたのでお知らせいたします。

### I. 前中期経営計画 “NEW YAGI 120” (平成 24 年 3 月期～平成 26 年 3 月期) について

#### 1. 総括

当社グループは、平成 26 年 3 月期を最終年度とする中期経営計画 “NEW YAGI 120” で「海外市場の開拓」「川下志向」「機能強化」「人材育成と社内インフラの整備」を重点施策として注力してまいりました。この結果、初年度は目標数値を上回り、2 年度目も概ね達成することができました。しかしながら、最終年度である平成 26 年 3 月期は、円安や生産国の人件費の上昇、原材料の高騰などにより輸入商品の原価が上昇し、販売価格への転嫁ができず収益が圧迫され計画数値を達成することができませんでした。

このことを受け、新中期経営計画 “Value Innovation 123” では、優位性を確立し競争に勝ち抜くための新しい戦略を構築し企業価値の増大を目指します。

#### 2. “NEW YAGI 120” の定量目標と実績の推移 (連結ベース)

金額：百万円

	初年度 実績 (平成 24 年 3 月期) 前々期		2 年度 実績 (平成 25 年 3 月期) 前期		最終年度実績 (平成 26 年 3 月期) 当期			
	当初目標	実績	当初目標	実績	当初目標	修正予想	実績	
連結売上高	110,000	⇒ 111,162	115,000	⇒ 113,893	120,000	⇒ 117,000	120,010	
連結経常利益	3,100	⇒ 3,518	3,250	⇒ 3,248	3,500	⇒ 2,400	2,430	

(注) 修正予想は平成 26 年 1 月 27 日に公表したものです。

## II. 新中期経営計画 “Value Innovation 123”（平成 27 年 3 月期～平成 29 年 3 月期）について

### 1. 基本理念

社是「終始一誠意」を規範とし、新しい価値の創造とグローバルな挑戦を行い、人々の生活によるこびを与え豊かな社会に貢献していきます。

### 2. ビジョン

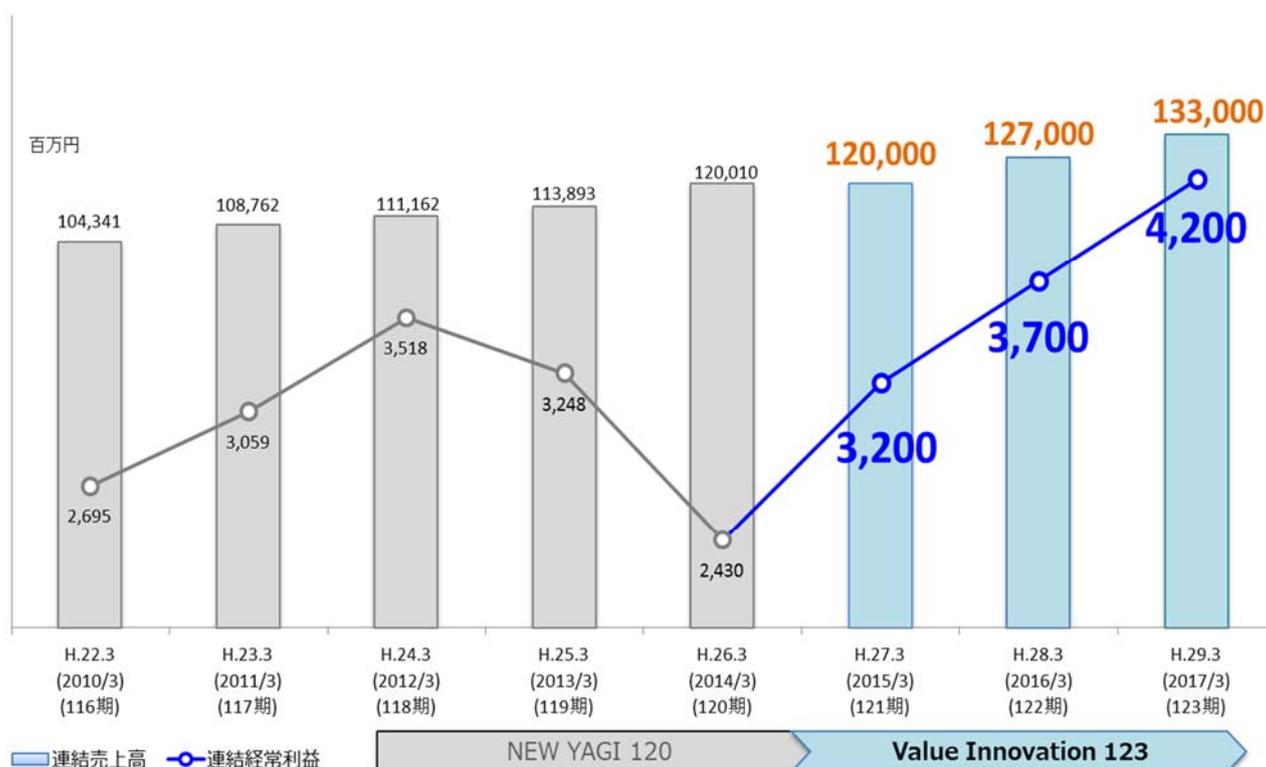
“New Power, New Speed”をスローガンに高収益化を図り、繊維商社のリーディングカンパニーを目指します。

### 3. 定量目標（連結ベース）

金額：百万円

	実績	“Value Innovation 123” 計画		
	平成 26 年 3 月期 (2014 年 3 月期) (第 120 期)	平成 27 年 3 月期 (2015 年 3 月期) (第 121 期)	平成 28 年 3 月期 (2016 年 3 月期) (第 122 期)	平成 29 年 3 月期 (2017 年 3 月期) (第 123 期)
連結売上高	120,010	120,000	127,000	133,000
連結経常利益	2,430	3,200	3,700	4,200

### 4. 連結売上高・連結経常利益の推移



### 5. 重点施策

- (1) 中核事業の高収益化
- (2) 海外事業の拡大・新規事業の強化
- (3) 経営管理体制の高度化

## 6. 重点施策概要

### (1) 中核事業の高収益化

- ① 継続した事業の見直しと入れ替えによる事業ポートフォリオの最適化  
(中核事業を最適化するため販路別・アイテム別の組織編成とし、営業力を高める)
- ② 為替変動に耐性のある商流へのシフト  
(ベターゾーンへのシフト、新しい販路への切り替えを行う)
- ③ 差別化戦略による競争優位の確立  
(素材提案力・コスト競争力・企画力と営業力を強化する)
- ④ スピードとリスクを両立した取引先の新規開拓  
(とくに成長性のある取引先との協業を行う)
- ⑤ 売上高販管費率目標 8%

### (2) 海外事業の拡大・新規事業の強化

- ① 海外事業の拡大
  - a. アセアンゲートウェイプロジェクト (AGP)、アセアンテキスタイルコンバーティング (ATC) の確立と発展  
(アセアンでの FTA (自由貿易協定) 拡大を睨み、原料と素材に独自性を持たせた二次製品までの一貫モデルをアセアンで構築し、商材の差別化を図る)
  - b. 海外戦略室を中心とした海外事業の拡大 (平成 26 年 4 月設置)  
(AGP、ATC および海外各拠点と連携し海外生産・販売の拡大を進める)
  - c. 物流機能の強化  
(生産・物流・販売の各システムを連動させ、顧客・商流ごとの個別最適物流を構築する)
- ② 新規事業の強化
  - a. 資材分野の拡大  
(省エネ・環境・安全を軸とした新しい商材を開発し、商流を構築する)  
(原料・素材の複合化、特殊加工技術の活用によるオリジナル製品を開発し拡販する)
  - b. M&A・アライアンスによる新規事業強化  
(事業範囲の拡大、高収益を実現する)

### (3) 経営管理体制の高度化

- ① 人的基盤の強化と育成
  - a. 人材の多様性を図り組織の活性化を行う
  - b. 次世代リーダー育成のための個別性の高い人材教育を行う
- ② グループ経営基盤の強化
  - a. グループ会社統括室により国内外グループ会社の経営強化を図る (平成 26 年 4 月設置)
- ③ 先進的 IT 活用による業務プロセスの改革
  - a. 業務効率化によりコスト削減を実行する
  - b. 社内インフラの整備によりワークスタイルの改革を行う

以上

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。